

日本放送協会報

2020年2月3日 第4480号

目 次

業務情報

(番組編集)

- ・2020年度国内放送番組編集の基本計画 1
- ・2020年度国際放送番組編集の基本計画 10

お知らせ

- ・放送番組審議会の開催（2月） 14
- ・放送番組審議会委員の委嘱等 14
- ・「NHK文研フォーラム2020」開催について 15

- 人事 17

業 務 情 報

(番組編集)

2020年度国内放送番組編集の基本計画

〔編成局〕

編集の基本方針

NHKは、総合テレビと教育テレビの放送をインターネットでもご覧いただくことが可能になる「常時同時配信」、そして放送後一週間はインターネット上でいつでも番組をご覧になることができる「見逃し番組配信」を実施します。

不確かな情報の拡散が社会問題となっている今、長年培ってきた取材・制作力によるニュースや番組・コンテンツを、放送の補完としてインターネットを通じて提供し、公共的価値を広く還元したいと考えます。

みなさまの期待にしっかりと応えるために、NHKはこれまでと変わることなく放送法で定められた公共放送の基本姿勢を堅持します。自主自律と不偏不党を貫いて、正確な情報を公平・公正に伝え、多彩で質の高い番組を追求していきます。

編集・発行 総務局

2015年に公表した経営計画では、「2020年に最高水準の放送・サービスの実現をめざす」ことをビジョンに掲げました。臨場感あふれる超高精細の映像と迫力ある音響によるBS4K・BS8K放送と、新たなインターネットサービスでビジョンを実現し、新たな時代の暮らしに貢献していきます。

2020年度は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。日本で開催される大会の魅力を余すところなく伝えるとともに、今後の社会にもたらす価値や影響についても積極的に取り上げます。

2021年3月には、東日本大震災から10年の節目となります。いまだ多くの課題を抱える被災地に寄り添い、復興を支援していくとともに、「災害から命を守り、安心できる暮らしに貢献する」ことを、最優先の使命とします。

摩擦が絶えない国際情勢、地球規模の気候変動、日本における少子高齢化の加速など、乗り越えなければならない課題が山積しています。持続可能で心豊かに暮らせる社会を実現するために、こうした課題にしっかりと向き合い、多角的な視点からじっくりと考えます。

みなさまの声を踏まえて、“公共メディア”の姿を追究し、業務の見直しと改革を進め、身近で信頼されるNHKへの進化を目指します。

編集の重点事項

1. 災害から命を守り、安心できる暮らしに全力で貢献

大地震や津波、超大型台風や短時間に局地を襲う豪雨、記録的な猛暑や寒波など、私たちの命と暮らしが自然の脅威にさらされる事態が頻発しています。2020年度は、東日本大震災から10年の節目となります。全国の放送局と本部が連携してテレビとラジオ、インターネットそれぞれの特性を生かしながら、日頃から防災・減災に取り組むとともに、災害時には状況を的確に伝え、全力で身を守るための情報を発信します。

テロリズムや悪質な事件・事故などの脅威、いじめや児童虐待などの社会問題などにも焦点をあて、一人でも多くの人の命を守るための情報をインターネットも活用しながら発信します。

公共メディアとして、「命と暮らしを守る」ことを最優先の使命として不断に取り組み、安全で安心できる暮らしに貢献します。

2. 持続可能な社会を見据え、日本と世界の課題を深く正確に発信

世界の潮流やグローバル経済の動向、地球規模の環境変化、日本の少子高齢化に伴う急速な人口減少、医療、介護や年金をはじめとする社会保障のあり方など、持続可能な社会の実現に向けて課題が山積しています。国民の一人一人がこうした課題に向き合い、事実に基づいて正確に理解し、解決への道筋を考え、具体的な方策を実現することが求められます。

NHKは、正確で公平・公正な情報を、早く、深く、わかりやすく伝え、判断のよりどころとなる「情報の社会的基盤」の役割を果たします。意見が対立している問題については、多くの角度から論点を明らかにし、広く議論の場も設けます。国民の政治への関心を促し、民主主義の発達に寄与します。

インターネットも活用して、視聴者のみなさまからの情報提供だけでなく、番組への参加も積極的に進めます。

3. 多彩で質の高い番組・コンテンツを、幅広い視聴者に提供

正確で信頼できる情報と質の高い番組・コンテンツを開発し、多彩なジャンルで視聴者の期待と関心に応えます。

多くの人にご覧いただく機会を作るために、一度放送した番組の素材を、切り口を変えて提供する「マルチユース」も推進します。インターネットサービスでは、取材過程で得られた情報も含め、番組関連コンテンツの提供を行います。「公共的価値」をしっかりと届ける編成をめざします。

各放送波の役割とインターネットサービスの特性を踏まえて、視聴・活用しやすい番組・コンテンツの提供に努めます。

4. “東京2020”の機会を生かし、その先の文化創造に貢献

東京オリンピック・パラリンピックは、スポーツを通じて多くの人たちと感動を共にできる2020年度最大のイベントです。世界の人たちに日本の文化・芸術・科学技術をはじめとする魅力を深く知ってもらうとともに、日本の人たちも世界の多様な文化や価値観を学

ぶことができる絶好の機会です。

NHKは、「4つの約束」(①スタジアムの興奮を日本全国で体感できます。②いつでもどこでも決定的瞬間をお届けします。③日本をひとつにつなぎます。日本が世界につながります。④共生社会の実現に貢献します。)を掲げて“東京2020”に取り組みます。

2020年3月から始まる聖火リレーや日本各地の国際交流、選手の活躍などを伝えるとともに、浮かび上がる課題にも向き合い、その先の時代の社会と文化の向上・発展に貢献します。

5. 多様な価値を認め支えあう社会をめざした放送・サービスを充実

誰もが人格と個性を尊重し支えあい、多様なあり方を相互に認め合うことで生まれる全員参加型の活力あふれる社会、いわゆる「共生社会」の実現に貢献するために、放送・サービスを充実させます。

障害者、LGBT、外国人をはじめ多様な人たちが、ありのままの姿で積極的に役割を担って生きることができる社会の実現には、どのような課題があり、どのように取り組めばいいのか。教育や福祉はもちろん、さまざまな分野の番組で考え、実践します。

字幕放送・解説放送・手話放送を計画に基づき充実させるとともに、さらに見やすく、聞きやすく、安心して視聴できるユニバーサル放送・サービスの充実に取り組みます。

6. 地域放送局と本部が連携して、地域の活性化と暮らしに貢献

全国各地の放送局は地域で暮らす人の視点から、役立つ情報や関心の高いテーマ、固有の課題などを積極的に取り上げ、地域社会に貢献します。

全国放送では、地域で制作した番組も積極的に伝えます。豊かな自然・文化・人々の営みなど地域の魅力を全国に広く発信します。

地域経済や地方分権など各地に共通する課題については、地域放送局と本部を結ぶネットワークをフルに活用して、解決に向けた道筋を考えます。

大規模災害時には、全国放送と地域放送それぞれの役割を踏まえて、迅速かつ的確に最新の状況を伝えるとともに、インターネットも活用して、命と暮らしを守るためのきめ細かな情報提供に全力を尽くします。

7. これからの社会を担う若年層や子どもの教育、健全な育成を支援

豊かで活力と希望にあふれる社会を構築するには、これからの時代を担う若年層や子どもの興味・好奇心を尊重し、正確な知識をもとに“考える力”を育てることが重要だと考えます。

NHKは「若年層や子どもの健全な育成への支援」を、これからの社会における公共メディアの重要な使命として改めて位置づけて、重点的に取り組みます。若い世代のさまざまな好奇心・興味を入り口に、安心して視聴することができる多彩な番組・コンテンツを充実させ、放送だけでなくインターネットも活用して提供していきます。

8. 日本と世界の相互理解を促進する発信を強化

国際社会との相互理解を進めるため、世界の情勢や各国の動向を正確な情報で伝えます。世界各地の魅力あふれる大自然や文化、芸術、最先端の技術などを、4Kや8Kの

映像も活用して、さまざまな番組で紹介します。日本の魅力や文化についても番組やコンテンツの国際展開などを通じて、広く世界に発信します。

また、日本にいる外国人が災害情報や地域の情報を得られるように、国際放送と連携した編成や外国語によるニュースの発信、デジタルサービスによる提供などを行い、日本への理解促進に貢献します。

以上の重点項目は、次のような施策も勘案しながら実施します。

- これまでの質的、量的評価の手法に加えて、公共放送として果たすべき役割（公共的価値）の実現度を測る評価指標を開発・試行し、より適切な資源管理を行いながら、視聴者の期待に応えます。
- 放送倫理やコンプライアンス意識を徹底し、長年培ってきた取材力・制作力を発揮して、事実に基づく確かな情報の提供と質の高い番組の制作に努めます。
- NHKの業務に携わるすべての人の健康確保に留意して、創造的で活力ある職場を構築するために、業務フローの抜本的見直しなど働き方改革やダイバーシティー施策の推進、職場環境の整備に取り組みます。
- 2K・4K・8K番組の一体制作、国際放送向け番組や地域向け番組の全国放送での編成など、さまざまな放送波・時間帯での番組のマルチユースを進め、限られた経営資源を効果的・効率的に活用します。

各波の編集方針

総合テレビジョン

基幹波として、安全・安心を守る報道に全力をあげて取り組み、何人からも干渉されない放送の自主自律と不偏不党を貫きます。また、インターネットによる放送の常時同時・見逃し番組配信が始まろうとする新たな時代、公共メディアの実現に向けて、公平・公正で社会の指針となるニュースや番組、娯楽・文化・スポーツなどの多彩な番組を充実させます。さまざまな手法で社会的な課題の解決に取り組むキャンペーンを展開します。東京オリンピック・パラリンピックは、数多くの競技中継や関連番組を通じ、大会の盛り上げに寄与するとともに、幅広い視聴者の関心に応えます。これからのNHKの顔となる番組や見る人の心を躍らせる番組、若年層のインターネットでの接触を意識した新たなコンテンツの開発に取り組みます。また、地域の発信力を高め、地域サービスの向上を図ります。

(編集のポイント)

1. 幅広い世代、特に現役世代、ネット世代の接触を増やすため、ご覧いただきたい視聴者層を想定した多彩な番組をバランスよく提供
2. 東京オリンピック・パラリンピックに関しては、聖火リレーや競技中継、関連番組を数多く編成
3. 新たな時代のNHKの顔となる番組、インターネットやデジタル技術を活用した番組の開発・強化
4. BS4K、BS8Kや国際放送などNHKのさまざまな番組を編成
5. 地域放送の充実と地域情報の全国発信を推進し、地域サービスを向上

[放送時間]

○1日24時間を基本とします。

[放送番組の部門別編成比率]

○定時番組について、教養番組20%以上、教育番組10%以上、報道番組35%以上、娯楽番組20%以上を編成します。

教育テレビジョン (Eテレ)

教育、福祉などの重要課題に加え、語学・教養・趣味・食・健康など多彩な番組を編成し、教育放送として幅広い世代の「知りたい」「学びたい」に応えます。番組とインターネットサービスとの連携を充実させ、子ども・若者の接触拡大を図るとともに、視聴者の多様な期待に応え、人々の暮らしに寄り添う放送を目指します。

(編集のポイント)

1. 教育、福祉、防災などの課題への総合的取り組み
2. 教育現場のICT化に対応し、新時代を生きる子どもたちの学びを支えるコンテンツを整備
3. 生活に密着した安心な情報を提供する健康・子育て番組、人生を豊かにする趣味実用・教養番組の充実

4. デジタルコンテンツやイベントと連携し、“見る”だけでなく“体験”を促すサービスを展開
5. “東京2020”への機運を高めるとともに、多様性を認め合い、“ともに生きる”社会の実現に貢献

〔放送時間〕

○1日20時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養番組15%以上、教育番組75%以上、報道番組若干を編成します。

BS1

“ライブ感あふれる情報チャンネル”として、「スポーツ」「ドキュメンタリー」「国際」「地域」の各分野を充実させ、刻々と変化する視聴者の関心事に最大限に応えます。

東京オリンピック・パラリンピックを盛り上げるためのさまざまな関連番組を編成し、多角的に伝えていくとともに、大会後は“東京2020”への取り組みを通じて得られた知見や成果を継承し、新しいスポーツ番組の開発を行います。

また、地域関連番組にも力を入れ、豊かな日本の魅力を発信するとともに、地域固有の課題を広く伝えます。

（編集のポイント）

1. “東京2020”へ向け、幅広いオリンピック・パラリンピックの関連番組を編成し、高まるスポーツ熱や関心に応える
2. “東京2020”大会後、新たなスポーツの魅力を伝える番組や、新演出を取り入れた番組の開発を進め、幅広い視聴者に届けることを目指す
3. 世界や日本の今を伝えるドキュメンタリー・報道番組の強化
4. 地域の魅力や課題を取り上げる番組の充実

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養番組20%以上、教育番組10%以上を編成します。

BSプレミアム

個性と見応えを追求した多彩な知的エンターテインメント番組を提供します。宇宙や大自然、芸術、教養、趣味など、さまざまなジャンルの番組で“スケール感”“本場”“一流”“最前線”にこだわり、格別な満足感を得られるチャンネルを目指します。

（編集のポイント）

1. BS4Kでの放送も前提に、新しい演出の番組を開発
2. 幅広い視聴者層を満足させる、週末の大型特集番組の充実

3. 東京オリンピック・パラリンピック期間中も多彩なジャンルの番組を編成
4. 地域の魅力を発信する番組の充実

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○特に定めない。

BS4K

4Kの機動力と高画質の魅力を生かした幅広いジャンル番組を提供し、超高精細映像チャンネルの先導的な役割を果たします。東京オリンピック・パラリンピック期間中は、競技中継などを通して4Kの魅力を伝え、BS4Kのさらなる普及を目指します。

(編集のポイント)

1. 2Kと4Kの一体制作を推進し、多彩なジャンルの番組を編成
2. 4Kの機動力を生かした独自の大型企画を充実
3. 他チャンネルの番組を一部先行放送し、視聴者サービスを拡充

〔放送時間〕

○1日18時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○特に定めない。

BS8K

全く新しい視聴体験に挑戦する世界最先端メディアとして、未知なる映像文化を切り開く番組を提供し、“NHKのフラッグシップ”チャンネルを目指します。東京オリンピック・パラリンピックでは、8K独自制作でその特性を生かした臨場感あふれる中継を行い、最高水準の放送サービスの実現に寄与します。

(編集のポイント)

1. BS8Kの認知度の向上を図るため、月ごとにタイムリーなテーマを設け、関連番組を集中的に編成
2. スタジアムやコンサートホールの特等席にいるかのような“臨場感”を体感できる大型中継や収録番組を編成
3. 後世に残したい文化財の記録など、8Kならではの特性を発揮できる公共メディアの役割を追求

〔放送時間〕

○1日12時間10分を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○特に定めない。

ラジオ第1放送

安全・安心を担う“音声基幹波”として、命と暮らしを守る情報を届けます。彩り豊かな番組や地域発の情報を充実させ、幅広い世代の関心に応えます。東京オリンピック・パラリンピックではさまざまな競技の中継に加えて、スポーツやアスリートの奥深さに迫る番組などで、大会を盛り上げます。また、インターネットラジオ「らじる★らじる」のサービス向上や「読むらじる。」の充実などデジタル展開を一層進めます。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養・教育番組あわせて25%以上、報道番組35%以上、娯楽番組20%以上を編成します。

ラジオ第2放送

生涯学習波として、多様な知的欲求に応える番組を編成します。また、語学番組の充実を図るとともに、多言語ニュースを強化し、加速する国際化に対応します。インターネットサービスとも効果的に連携し、“いつでも”“どこでも”学べる機会を提供します。

〔放送時間〕

○1日19時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養番組15%以上、教育番組65%以上、報道番組10%以上を編成します。

F M放送

“総合音楽波”として、多様で多彩な音楽・芸能ジャンルの番組を編成し、リスナーの関心に応えます。さまざまな世代に、音楽により親しんでもらうことを目指し、人気番組やクラシック番組を拡充します。災害など緊急時には、ラジオ第1放送とも連携して機動的な編成を行い、地域情報波として、ライフラインを中心にきめ細かな情報を提供します。

〔放送時間〕

○1日24時間を基本とします。

〔放送番組の部門別編成比率〕

○定時番組について、教養・教育番組あわせて40%以上、報道番組10%以上、娯楽番組25%以上を編成します。

2020 年度国際放送番組編集の基本計画

〔国際放送局〕

編集の基本方針

東京オリンピック・パラリンピックの開催年となる 2020 年。日本に対する世界の関心が一気に高まります。オリンピック・パラリンピックの熱狂とそのレガシーやさまざまな変化も見込まれます。NHKの国際放送は、視聴者・聴取者のニーズを捉えながら、日本の公共メディアとして、正確で公平・公正な情報を世界に発信します。放送だけでなく、インターネットも活用してスマートフォンやパソコンなどの端末やソーシャルネットワークサービス（SNS）への展開も一層推進します。また、多言語化を積極的に進め、世界の人々に向けて質の高いサービスを届けます。

「NHKワールド JAPAN」の外国人向けテレビ国際放送では、東京オリンピック・パラリンピックとそれにより転機を迎える日本の姿を、ニュースと番組、インターネットを活用して世界に伝えるとともに、持続可能な社会の実現に向けた活動なども積極的に取り上げます。また、災害時などの緊急報道では、多様な発信経路を活用して訪日・在留外国人に向けた安全・安心情報を発信します。

また、インターネットのサービスでは、使い勝手を考慮するなどの改良にとりくむとともに、ストリーミング、ビデオ・オン・デマンド（VOD）、SNSを融合した多言語サービスを実現します。

外国人向けラジオ国際放送では、ニュースをはじめ防災・減災情報、日本での滞在に役立つ生活情報、日本語学習などを、全世界に向けて 17 の言語で発信します。ラジオ第 2 放送でも、年々増加しているアジアからの訪日・在留外国人に向けてタイ語のニュースを新設し、ベトナム語・インドネシア語と合わせて夜間に編成するなど、国内にいる外国人へのサービスをさらに強化します。

在外邦人向け国際放送では、テレビ放送「NHKワールド・プレミアム」とラジオ放送「NHKワールド・ラジオ日本」を通じて、日本の“いま”を丁寧に伝えます。また、災害時には、正確・迅速な情報の提供に努め、海外で暮らす日本人や旅行者の安全・安心を守る“日本語のたしかな情報源”としての役割を果たします。

編集の重点事項と各波の編集方針

1. NHKワールド JAPAN

(1) テレビ（英語・外国人向け放送）

・“東京2020”の舞台 日本を紹介

東京大会の開催都市や日本各地のホストタウンについての情報を発信する番組、ホストタウンと相手国とのつながりを伝える番組を制作するほか、聖火リレーの模様もコンパクトにまとめ、発信します。また、東京大会の開催時期に、競技結果のほか、スポーツの歴史や競技の魅力・見所を紹介します。

・多彩な発信経路でニュースを強化

毎正時のニュースでは、新設するニューヨークスタジオを活用して、多彩なニュースを日本やアジアからの視点も交えて伝えます。地震や台風などの災害時には、総合テレビとの連携を強化するとともに、SNSや多言語によるニュース配信をすることで、安全・安心情報の提供を強化します。

・新共生時代～日本社会とレガシー～

多文化の共生を目指す日本各地の外国人コミュニティーに焦点をあてた番組や日本の暮らしに関する外国人の疑問に答える番組、自然災害の多い日本における防災の工夫を伝える番組、世界的な課題に日本・アジアの視点で向き合う番組を充実させます。あわせて、多言語展開を推進するとともに、放送と連携したデジタル展開も強化します。

・「国内・国際連携」で豊かなクオリティーコンテンツ

海外の視聴者にも関心が高い医療・健康をテーマにした番組や、ドラマや音楽など多彩な日本の魅力を発信する番組、NHKならではのドキュメンタリー番組や地域放送番組の英語化など、国内放送とのマルチユースを引き続き推進します。

〔放送時間〕

世界全域……1日23時間以上が基本

〔放送番組の部門別編成比率〕

定時番組について、報道番組60%以上、インフォメーション番組25%以上を編成します。

(2) ラジオ (17言語・外国人向け放送)

・安全・安心に役立つ情報の発信を強化

災害や大きな事件・事故の際には機動的に対応し、最新のニュースを的確に伝えます。防災・減災については、引き続き日本のノウハウなどを発信し、世界のリスナーに安全・安心を届けます。年々増加しているアジアからの訪日・在留外国人に向けても、ラジオ第2放送との連携をさらに強化し、最新情報を届けます。

・日本への理解を深める情報・日本滞在時に役立つ情報を発信

日本への関心が大いに高まる2020年、日本の文化や魅力、地域の話題などを引き続き取り上げ、訪日意欲や日本への理解を促進します。また、アメリカの公共ラジオに番組を提供する試みをスタートし、日本をより身近に感じてもらうとともに、「NHKワールド JAPAN」の存在感を高めます。

〔放送時間〕

世界全域……1日およそ40時間35分(17言語合計)

〔放送番組の部門別編成比率〕

定時番組について、報道番組60%以上、インフォメーション番組25%以上を編成します。

(3) インターネット

・ユーザー視点にたったサービスの充実

テレビとラジオを統合した新アプリやウェブサイトのバージョンアップにとりくみ、災害時のインターネット発信をさらに充実させます。テキスト、動画、音声をわかりやすく配置し、ユーザーのニーズや使い勝手を考慮したインターネットサービスを展開します。

・SNSを活用した発信を強化

ニュースのショート動画をSNSで発信するなど、さまざまな特性とユーザー層を持つインターネットメディアをフル活用して、NHKワールド JAPANの認知向上を図ります。

・多言語コンテンツ発信の強化

AIによる自動翻訳を活用した多言語字幕付与サービスをストリーミングで実施するなど最新技術も活用し、より多くの方にNHKの豊富なコンテンツを届けるための施策を実施します。中国語発信については、簡体字に加えて繁体字発信も充実させ、多彩なコンテンツを届けます。

2. NHKワールド・プレミアム（日本語・在外邦人向け放送）

- ・“東京2020”を迎えた日本のいまを伝える
東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた日本各地の動きや競技結果を、ニュースなどを通してくわしく伝えます。また、2020年から先の課題や解決策を、さまざまな角度からわかりやすく伝えます。
- ・海外の日本人の「安全」と「安心」を支える
海外で暮らす日本人や旅行者の命と暮らしを守る重要なライフラインとして、内外で頻発する自然災害や、大きな事件・事故などの際には、機動的にニュースを編成するなど、迅速かつ的確な情報の提供に努めます。

〔放送時間〕

世界全域に向けた同一の番組編成……………1日およそ5時間
北米・欧州地域に向けた、現地の生活時間にあわせた番組編成
……………各1日およそ5時間

〔放送番組の部門別編成比率〕

定時番組について、報道番組80%以上、インフォメーション番組5%以上、
娯楽番組を若干編成します。

3. NHKワールド・ラジオ日本（日本語・在外邦人向け放送）

- ・最新のニュース・番組、安全・安心情報の提供
国内のニュースや情報番組、スポーツ中継など、2020年を迎えた日本の“いま”を届けます。また、災害や大きな事件・事故の際は最新のニュースを国内と同時に伝えるほか、毎日、海外安全情報を伝え、海外で暮らす日本人の安全・安心を守ります。

〔放送時間〕

世界全域……………1日あたり24時間（日本語）

〔放送番組の部門別編成比率〕

定時番組について、報道番組60%以上、インフォメーション番組25%以上、娯楽番組を若干編成します。

お 知 ら せ

放送番組審議会の開催 (2月)

審 議 会	日 時	担 当
第 667 回 中 央 放 送 番 組 審 議 会	2 月 17 日 (月) 午後 4 時	編成局
第 666 回 関 東 甲 信 越 地 方 放 送 番 組 審 議 会	2 月 21 日 (金) 午後 3 時	編成局
第 663 回 近 畿 地 方 放 送 番 組 審 議 会	2 月 19 日 (水) 午後 3 時	大阪拠点放送局
第 665 回 中 部 地 方 放 送 番 組 審 議 会	2 月 20 日 (木) 午後 3 時	名古屋拠点放送局
第 666 回 中 国 地 方 放 送 番 組 審 議 会	2 月 20 日 (木) 午後 2 時	広島拠点放送局
第 669 回 九 州 沖 縄 地 方 放 送 番 組 審 議 会	2 月 20 日 (木) 午後 2 時	福岡拠点放送局
第 670 回 東 北 地 方 放 送 番 組 審 議 会	2 月 20 日 (木) 午後 2 時	仙台拠点放送局
第 664 回 北 海 道 地 方 放 送 番 組 審 議 会	2 月 19 日 (水) 午後 2 時 30 分	札幌拠点放送局
第 668 回 四 国 地 方 放 送 番 組 審 議 会	2 月 17 日 (月) 午後 3 時	松山拠点放送局
第 666 回 国 際 放 送 番 組 審 議 会	2 月 18 日 (火) 午後 4 時	国際放送局

放送番組審議会委員の委嘱等

〔編成局〕

審 議 会	年 月 日	委 嘱 等	氏 名
四国地方放送番組審議会	2020. 2. 1	再委嘱	西 本 佳 代 氏 (香川大学大学教育基盤センター准教授)

「NHK文研フォーラム2020」開催について

〔放送文化研究所〕

「NHK文研フォーラム2020」を次のとおり開催します。

【日 程】3月4日(水)・5日(木)・6日(金)

【会 場】千代田放送会館 (千代田区紀尾井町1-1)

【テーマ】メディアの真価とは？

【内 容】

*プログラムは、変更になる場合があります。

3月4日(水)	
【A】13:00～14:40 研究発表	何みてる？令和の子どもたち 最新データが語る 幼児向け映像コンテンツのミライ ゲスト：飯 田 佳奈子 (テレビ東京コンテンツ統括局プロデューサー) 中 村 貴 子 (編成局) 報 告：山 本 佳 則・吉 藤 昌 代 (放送文化研究所) 進 行：阿曾田 悦 子 (放送文化研究所)
【B】15:00～16:30 研究発表	仕事も家庭も楽しめない日本人！？ 国際比較調査から見える日本人の姿 ゲスト：白 河 桃 子 (相模女子大学客員教授、ジャーナリスト) 常 見 陽 平 (千葉商科大学専任講師、働き方評論家) 報 告：村 田 ひろ子 (放送文化研究所) 進 行：村 田 英 明 (放送文化研究所)
3月5日(木)	
【C】10:00～12:30 ワークショップ	NHKアーカイブスに公共メディアの価値を探る 認知症ケアと学術利用の事例から パネリスト：来 島 修 志 (日本福祉大学助教) 梶 原 均 (知財センター) 研 究 発 表：「学術利用トライアル」を活用した研究者のみなさん 進 行：大 高 崇 (放送文化研究所)
【D】14:00～16:40 研究発表・ シンポジウム	SNS時代の誤情報・虚偽情報とメディア “フェイク”にどう向き合うのか パネリスト： 遠 藤 薫 (学習院大学法学部教授) 古 田 大 輔 (ジャーナリスト、メディアコラボ代表) リチャード・バージェス (BBC 国内ニュース取材部長) 足 立 義 則 (報道局) 福 長 秀 彦 (放送文化研究所) 進 行：柳 澤 伊佐男 (放送文化研究所)

3月6日(金)	
【E】 9:30～12:00 ワークショップ	市民が描く「戦争体験画」の多様性と可能性 地域放送局に寄せられた4,900枚の絵から パネリスト：齋藤 亜矢(京都造形芸術大学准教授) 大澤 寅雄(ニッセイ基礎研究所主任研究員) 田中 禎昭(専修大学文学部准教授) 報告：井上 裕之(放送文化研究所) 報告・進行：吉田 功(放送文化研究所)
【F】 13:30～15:30 シンポジウム	これからの“放送”はどこに向かうのか？ 本質的な論点に向き合うために パネリスト：宍戸 常寿(東京大学大学院 法学政治学研究科教授) 林 秀弥(名古屋大学大学院 法学研究科教授) 西田 亮介(東京工業大学リベラルアーツ研究教育院准教授) 報告・進行：村上 圭子(放送文化研究所)
【G】 16:00～18:00 シンポジウム	情報が氾濫する中での「信頼とつながり」 “市民とともに”歩むジャーナリズムの試み パネリスト：リチャード・バージェス(BBC 国内ニュース取材部長) ジェシカ・マリア・ロス (カリフォルニア州公共ラジオCPR エンゲージメント戦略責任者) 坂本 信博(西日本新聞社『あなたの特命取材班』キャップ) 細田 直樹(制作局) 報告・進行：青木 紀美子(放送文化研究所)

【参加申込】 申し込み方法などの詳細は、放送文化研究所ホームページに掲載しています。
(先着順で定員に達したプログラムは募集を締め切ります。)

— 人 事 —

〔人事局〕

— 懲 戒 —

年月	発令事項	処分理由	備考
2019.12	停職1か月	就業規則違反	
〃	懲戒免職	〃	
	減給	〃	2名
	譴責	〃	2名
〃	譴責	〃	6名